裏ドS男子
淫らな義姉のしつけ方
2
presented by
えい吉
eikichi

第4話

大丈夫？
!
はっ
平野先生っ
すみませんっ
大変だったね
しいっ
でもあんな
貼紙なんて
気にすること
ないですよ
僕はちゃんと
信じてます
から…
……っ

ありがとう…っ
ございますっ
違うの
貼紙も
そうだけど
それ以上に
…春兎を
春兎をっ
怒らせて
置いて
いかれた
事が…っ
ボロ
ボロ
ふっ
ん
っ!
泣かないで
僕がついて
いるから…
ぎゅ

木下先生は笑っている顔が一番です
平野っ…先せ…
どうして？
この人となら立場も何も関係なく愛し合えるのに…っ
私と春兎は教師と生徒でっ
…姉弟でっ
好きになっちゃいけない相手なのに…
陽菜

私っ
もう
春兎じゃないとダメだ———…っ
ピイチョンッ
結局あれから一度も話せなかったな…
初めて逢った時はただの生徒だったのに

しかも…
ばっ
告白現場を
目撃したと
思ったら
いきなり
告白されて
っ
かあっ
いつも強引で
私の言う
ことなんて
何も聞いてて
くれなくて
ぴくんっ
こんな
年下にって
何度も
思ったけど
んっ
んぅっ

でもちゃんと想われてた…っ
春兎の声も
陽菜
陽菜
愛してるよ
春兎の目も
春兎の手も
全部で私を想ってくれてた
嬉しかった

あっんっ
はるとっ
ゾワ
ゾワ
こんなにも
春兎が
好きなのに…！
くちゅ
ぐちゅ
なのに何で
気付かなかった
んだろうっ
私…っ
こんなにも
ちゅぷ
ぢゅる
もっと
もっと
春兎に
触って欲しい
もっと
はあっ
春兎っ
んっ

あぁっ
じゅぷ
じゅぷ
はぁ
春兎…っ
あぁっ
ぜヮゾッ
ぜゥ
春兎…!!
ぜゥ
あああーっ
んあっ
ぜゥッ
はあっ
はっ
ガゥ
はっ
ガゥ
ガゥ
ガチャ
もう一度…
来てはくれないの?
春兎…っ

春兎！

今日はお昼屋上？

…お前も毎日飽きねぇな

ぱだ
ぱだ
ぱだ
ぱだ
っ
あーあ
避けられてる
…可哀想
春兎
そういえば
春兎は何も
言わないんだね
私達が
付き合ってるって
噂されてること…

……
まぁ
そうよね
おかげで
木下先生とは
ただの嫌がらせって
ことになってるし？
すっ
もぐ
もぐ
先生は生徒を
誑かしたって
悪口言われなくて
済んでるもんね
ふっ
ふんっ
だから
好き！
ぎゅ。
優しいね
春兎は

お前
いい加減に
しろよ!!
ぐいっ
っ
いつまで
こんなことっ
…いつまで
って……
そりゃ春兎が
振り向いて
くれるまで…
かな
春兎
私とも…
エッチしよ?
するっ

そんなことっ
写真
スイッ
返して欲しくないの？
！
私を抱いてくれたら
返してあげる
はっ
お前何？
俺と付き合いたいんじゃなくて
俺のを咥えたいだけなの？
笑わせる。
失礼ね！
私の身体を知ったら先生のことなんかすぐ忘れちゃうってことよ!!

それに
若い
身体の方が
いいでしょ？
……
傷ついた顔
しやがって…
こうなったら
こいつとの
セックスを
見せ付けて
自分の気持ちに
気付かせてやるっ
いいぜ
抱いて
やるよ
!!
春兎
愛してる！

キーンコーン
カーンコーン
さよーなら
はーい さようなら
木下先生！
ドキッ
にこ
にこ
っ
清水さん!?
どうしたの……？
今日これから先生のお宅にお邪魔しますね
えっ!?
どっ
どういうっ
じゃあ さようなら〜
何？お宅って…
春兎と一緒に？そんなっ

職員室
まさかっ
お疲れさまです
もうお帰りですか？木下先生
……
嫌よっ嫌！
後悔すんなよ？
後悔なんてしないわ
好きよ…春兎
春兎っ

ガチャッ
あっ
お帰り！
今ちょうど春兎君の彼女っぽい子が来てるんだけど
!!
えっ陽菜!?
ばっ
春兎っ
っ
あ…っ
気持ちいいっ
春兎もっとぉ…っ
遅かっ…

随分良さそうだな
だって春兎が上手なんだもん……
私に舐めさせて？
スッ
いらない
そんなっ
もっと優しくしてぇ…っ

俺に抱かれたいんだろ?
好きにさせろよ
…っ
なら…好きにしていいからっ
私の中を春兎でいっぱいにして?
仕方ねぇな ほら ケツ上げろ
きつくても泣くんじゃねぇぞっ
あっ あっ
気持ち良いっ!!

春兎っ
もっと…!!
あっあっ
イクッ
イクッ!!
んあぁーーっ!!
はぁっ
はぁ…
…どう？
私の身体…
!?
春兎っ
……
はっ

ぐぉっ
っ
はっ
おっ
うっうっうっ
ぐぉっ
っ
?
っ
ぐぉ
まさかっ
はっ
ばっ
ガチャ
陽菜っ
やだ…っ
春兎を取らないでっ
やっと分かったの…
私っ
春兎が好き…っ

春兎が
大好き…
他の子なんて
抱かないでっ
陽菜っ
ぎゅっ
ごめん
俺が
悪かった
…陽菜
はっ
何この
茶番！
春兎!!
あなた
イってない
わよね？
何で？
私の身体じゃ
イけないって
こと!?
…そうだな

っ何それ!?
バカにしてんじゃないわよ!!
写真バラ撒くわよ!?
好きにしろよ
やってらんないわ!!
ばっ
バサ
バサ
バサ
パラ
パラ
写真…!
あっ
陽菜…
ごめんなさいっ
嫌いなんて言って…
好きよっ
先生と生徒でも
ポロ
ポロ
ポロ

姉弟でもっ
それでも好きなのっ
!
俺もだ…
はぁ
陽菜が欲しい
スッ
うんっ
バタバタ
何なのよ
…そうだね
いけないよね
先生と生徒なんて…

第５話

春兎
春兎
俺も…
ちゅく
好きよっ
大好き
ちゅく
愛してるよ
陽菜
ぐじゅ
待って…
もっと
ゆっくり
くちっ
するっ

!
かあぁ
もう我慢
できねぇ
うん…
じゃぁ
きてっ
あぁっ
いっ
っ
いくぞ
春兎っ
んぁっ

おぶ
はるっ
んあっ
ぢゅぶ
気持ち いいっ
ぴちゃ
ひあああ、だめっ
ぴちゃ
あっ
ああっ もう イクッ
俺もっ
ずちゅ
んあああ
はっ
はぁ
私を選んでくれてありがとう…
春兎
はぁ

職員室
ガラ
おはようございます　木下先生
おはようございます！　平野先生っ
どうしたんですか？　何か良いことでも？
え⁉　やだっ　分かります⁉
へぇ…
ちょっと家で嬉しいことがあっただけなんですけどね
えへへっ

流行りだしているので生徒達に注意を…
はぁ…
早く教室へ行きたいなぁ
早く春兎の顔を見ながら授業がしたいわ
陽菜
やだもうっ
スズッ
ホントに嬉しそうですね
ヒソ
ヒソ
え？まっまぁ…
てれっ
やっぱり笑顔の方が素敵だな
その方が僕は好きです

どの
女性よりも…
あなたの笑顔は
輝いて見えますよ
そうですか？
やだなぁ
平野先生
ったら…
そんなに
褒めても
何も出ま
せんよ？
!?
平野先生!?
ひっ

この豊かなバストも
むぎゅ
綺麗な丸いお尻も…
ぐに
やあっ
やだっ
腰細いも
するっ
スラリと伸びた足も
するっ
平野先生っどうしたの!?

きっと
ここも
グリ
グリ
あっ
やっ
やめっ
全部僕の
好みだ
とても
魅力的で
綺麗ですよ
っ
ドキッ
スイッ
やぁあっ
平野先生っ
どうして…

ぱっ
聞いてよ春兎!!
何だよ？
今朝ね職員会議中に平野先生がね
何だか様子が少し変で…
…その…あの…
？
はっきり言えよ
セクハラされたの！
は？

あの平野が？
優しくていい先生だと思ってたけど…
イイ先生代表！
っ
スッ
あ。
平野には今後あんまり近づいたり2人っきりになったりすんなよ？
ぎゅっ
お前は俺のなんだからな
うんっ

って言われたばっかりなのに
２人っきりで書類整理だなんてついてない
でも！
仕事だもんね
早く片付けて帰ろっ
え？
ダン

ひっ
平野先生!?
2人っきりですね
木下先生
っ
僕ね
前から先生のこと良いなって思ってたんですよ
あっ
や…何をっ
そしたら今年同じクラスを受け持つことになって
距離が近づいて
よりあなたの魅力を知ってしまった

プチッ
なのにあなたときたら男子生徒なんかと…
あんな奴より僕の方があなたに相応しいのに！
あっ
するっ
誰かっ
かあああっ
もうみんな帰ったので
呼んでも誰も来ませんよ？
やめてっ
平野先生！
僕にこうさせてるのはあなただ
あなたが魅力的なのが悪いんですよ

ぬちっ
だから僕のものになって…
いやぁっ
ぐちゅっ
逃がしませんよ
っ!?
スッ
それはっ
春兎から没収して机の中に入れてたはずの媚薬!!
先生これお好きでしょう?
素直になってください
あっだめっ
それは…

身体が熱いッ
やだっ
私っ春兎じゃない人に抱かれちゃうの!?
木下先生の中すごく熱いですよ
それにもうドロドロだ
やだよぉ春兎…っ

ぎゅうぎゅう締め付けて…
ちっ
ちが…っ
そんなに僕と一つになれるのが嬉しいんですか？
いやらしい人だ
カあぁっ
ぐちゅ
っ!!
さて
もういいですね
やっと
あなたと
一つに…
助けてっ
春兎!!

ガラッ
陽菜!?
職員室
ガッ
うわっ
春兎・・・
はぁっ
平野てめぇ・・・っ
人の女に手ェ出してんじゃねぇよ!!
今後指一本陽菜には触れるなっ
じゃなきゃ・・・

今の写真をハラ撒いてお前を社会的に抹殺してやる
いいなッ!!
すみませんでしたっ
ばっ
大丈夫か？陽菜
ぱっ
あまりにも帰りが遅いから迎えに来たんだ
春兎…どうしてここに？
そしたらこんなことになってるから
ビックリしたぜ…

ありがとう 春兎…っ
…ねぇ お願いっ
抱いて？
はっ はぁ
平野先生に あの媚薬を 塗られて…
もう 身体がっ
お願いっ 早く!!
春兎…っ
いいぜ？
俺を その気に 出来たらな
!?
……っ

んっ んぱっ
あっ
きっ 気持ちいいっ
はぁっ
んはっ あっ
気持ちいいか？
春兎っ 早く…
はっ
あっ
はぁっ 足りないの
あっあっ
でもっ

自分じゃ奥が届かない
はぁっ
する
うず
仕方ねぇな
ぎゅっ
やぁっ
そうじゃなくて…っ
どこに？
春兎のが欲しいの！
かあぁっ

ぎゅ
ここに…っ
はぁっ
はぁっ
お願いっ
はぁっ
やぁっ
ぐちゅ
挿れて？
じゃぁ
たっぷり
ずぶ
味わわせて
やるよ！
んあああぁっ
ぜっ
ズブブブ

もう誰にも渡さない
離さない
気持ちいいっ
春兎っ
はるとっ
お前は俺だけのものだ
春兎も…私だけのものよ？
ああ

もうダメエエ!!
一緒にイくぞッ
これからもよろしくな
姉さん

第６話

はいっ
お父さん
お母さん
二人ともまだ
新婚旅行も
行けてなかった
でしょ？
だから
私から
温泉旅行の
プレゼント！
まぁ！
いいの？
陽菜
うんっ
二人で
楽しんで
きて♪
わい
わい
……
！
姉さん
その日俺達も
旅行に行こう！
そっ
は？
えええ⁉
イイコト
思いついた

あの後
強引に事を
進められて
連れてこられ
ちゃったけど
……
…すっごい
気持ちいい～っ
癒される～
はわわ
ぱしゃっ
年寄りくさ…
なっ
私はまだまだ
若いわよ！
そもそも温泉に
行きたがった
春兎の方が
お年寄りみたい
じゃないっ
はいはい
くす
くす

えっ!?
ちょっと
春兎!?
いいじゃん
ここなら俺達が
姉弟だって
知ってる人は
いないんだし
!
あ…
かあっ
そっ
そっか…
この旅行の間は
私達 恋人で
いいんだ
嬉しいっ

スッ
？
え？
ビクッ
はっ
春兎っ 何!?
しっ
て…
!!
静かにしないと 後ろの人に 聞こえるぜ？

どうして?
ど
どうしてって…
見られたら…
どうするのよっ
かぁぁっ
足湯
陽菜が声を出さなきゃ大丈夫だろ?
それに…
この旅行俺持ちだし?
陽菜には身体で払ってもらわないとな

そんなっ
そんなトコまでっ
ああっ
やだっ
感じちゃうっ
直ぐ後ろに人がいるのにっ

ぐちゅ
ちゅく
んぁ、はぁっ
ぐちゅ
ちゅく
気持ちいいっ
陽菜
向こうからこっち見てる人がいる
えっ

ぱっ
ふ…
ぎゅっ
冗談だって
やぁあぁ
ばっ
っ
なっ
ああっ
ダメっ
やめて
春兎!!
!!

こんな所でっ
ゾクン
イッちゃう
あぁっ
他の人が近くにいる所で…イっちゃうなんてっ
はっ
もうっ信じらんない!!
だって陽菜が可愛かったからつい…
春兎はもっと自重した方が良いよっ
〜っ

そんな事言われたって許さないんだからっ
むすー
失礼します
そろそろお夕飯の時間ですが運び込んでよろしいでしょうか？
はい！お願いしますっ
はい
お若いですがお二人は新婚ですか？
ゆっくりしていって下さいね

新婚だって
やだ もうっ
いい大人が はしゃぎすぎ
落ち着いて 食べないと 喉詰まらせるぞ
すご〜い
美味し そう〜
な〜んて 言って
ゆっくりしてたら 私の分も春兎が 食べちゃうんでしょ
ダメだからね！
私の分は 私のだからねっ

ごろ〜ん
お腹いっぱい
もう食べられなーいっ
この酔っ払い…
口に醤油ついてるぞ
えっ
かぁっ
ハンカチハンカチ〜
あれ？あ〜やだ…
足湯の所にハンカチ忘れてきたみたい
私取りに行ってくる
すくっ
え？今から？じゃあ俺も…

一人で大丈夫だから休んでて
えっとどこに～
カワイ子ちゃん発見～！
ホントだ!!
一人？俺達とイイことして遊ばない？
結構です…

私っ
ハンカチ
探しに来た
だけなんでっ
これ？
あっ
返して
欲しかったら
大人しくしてな
あっ
やっ
声上げちゃ
だーめ！
やめっ

可愛い乳首
ちゅぱ
ちゅぱ
お尻だっていい形してるぜ
やだっ やめて…
力が入らないっ
お酒なんか飲むんじゃなかった
お姉さん身体火照ってるよ？
何だそんなに俺達が欲しかったんだ
じゃあ思う存分っ
ちが…っ

ぷ
良い感度じゃん
これは楽しめそうだな
よしじゃあまずは俺からな
!!
やだぁッ春兎!!

いくぞ
ガリッ
てめ…
ガリッ
!?
ドッ
ゴキ
ったく
!!
あ…っ
春兎

ぐっ

春兎？
あの…

助けてくれて
ありがと…

春兎が来て
くれなかったら
私…っ

お前はすきが
ありすぎなんだよっ

っ

ご…
ごめん…っ

!?

湯

家族

春兎？何ここ…
家族風呂って
一緒に入るためにここも借りてある
え…っ
あいつらに触られたとこ全部洗い流すついでに
お仕置きしてやるよ

あっ あっ
春兎っ
んあっ
もう…っ
綺麗になったから…！
はぁ？
何言ってんだよ
まだ
ドロドロじゃ
ねぇか
んあぁっ
それはっ
あっ
やぁあっ
はぁ
私の…っ

え？何？聞こえねぇ
あっ
あぁぁぁ
ひぃあぁあん
じゅぽ
ぼぼぼっ
何？今ので イッたの？
どうしようもない 姉さんだな

でも今ので
満足したわけ
じゃないだろ？
どうして
欲しい？
春兎のが
……
欲しいっ
お願いっ
挿れて
素直だな
もしかして
昼間のアレから
ずっと欲し
かったとか？
素直な
良い子には
ご褒美だ
あああっ

あっ
くっ
相変わらず良い締まり
ずちゅ
あっ
はっ
はるとっ
春と…
ずぶっ
あっ
もうダメッ
はっ
あっ
おん
んあああっ
ぜっ
ぜっ
俺もっ
んっ
ぉびゅ

カコーン
ぱぁ
もうダメ
一歩も動けないー
ぬろ
ばた
ん？
ゴムが…
いっぱい…
にこ
ばっ
あっ
まだまだ若いんだろ？
今夜も寝かせねぇからな
そんなっ
もう無理だよぅ〜!!
うえ〜ん

裏ドS男子
～淫らな義姉のしつけ方～
2

著者　えい吉

発行　株式会社 アイプロダクション